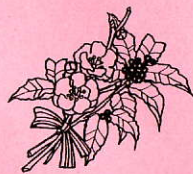


中途失明者の 妻として生きる



山本のぶ江さん(101歳)

半田市岩滑新田生まれ。

体は生来健康で、95歳位まで庭の草取りをしたりで、今もどこも悪い所はないそうです。「おばあちゃんはしっかり者で、何をやってもちんとした仕事ぶりでしたよ」(お嫁さん)

平成17年脳梗塞で倒れ幸いにも大した後遺症もなく、今は陽のよく入る、外の様子もよく見える居心地のいいお部屋で、ゆったりとした毎日を過ごしています。菜食が主だった以前と比べ、今は何でも食べます。ウナギ、サラダ巻、いちじく…。なかでも餛飩は欠かせません。

ご主人が28歳で失明し、以来、のぶ江さんはその手足となり、お仕事その他にいつも付き添いました。また、俳句や川柳を趣味とするとご主人のために辞書を引いたり、調べ物をしたりして94歳で亡くなるまで一心同体の暮らしてました。そのお陰か、のぶ江さんは今でももの知りで、漢字も良くご存知です。社会的にも活躍したご主人をよく支えたということで、県知事から感謝状もいただいたそうです。「いつも二人寄り添って『高砂』の夫婦みたいでしたよ」(お嫁さん)テレビは、相撲、野球が好きで、以前は相撲の取り組みにも詳しくったとか。昨年の野球のワールドシリーズも手をたたいて楽しんだし、時にはヘルパーさんと政治のことを話したりもします。「おばあちゃんは立派な人が好きでねえ、時折テレビやその他出会う人を見ては、『立派な人だなあ』といいます。何か感じるものがあるのでしょうか。私が嫁に来て以来、いつも実の娘みたいに扱ってくれて、今まで言葉に尽くせないくらいよくしてもらいました。お返しのもりでお世話させてもらっています。おばあちゃんはどうもありがとうございます。いつもニコニコして穏やかでね。何にでも、『ありがとう、すまんねえ』と感謝をし、人を喜ばせる言葉だけを口にします。悪い言葉は出しませんねえ」と同居のお嫁さんは語ります。

平成22年(2010) 1月

NO. 42

発行/ 特定非営利活動法人 りんりん
半田市岩滑高山町5丁目4番地
TEL (0569) 21-3646 FAX (0569) 32-6623
http://rinrin.or.jp E-mail npo@rinrin.or.jp

ありがとうございます 皆さまの温かいご支援が
りんりんを支えています。

ご寄付ありがとうございます

新美 勝彦 水野 陽子 (敬称略)

平成21年度賛助会員

川井 淑子 (敬称略)

避難訓練

11月21日総勢49名で避難訓練を実施しました。半田消防署員が見守る中、デイスサービスの避難・水消火器での消火・避難ばしごの使い方などを練習し、指導も受けました。どんな時にもすぐに避難できるようにしたいものです。火を出さないようにするのが一番です!“火の用心”



りんりんのできごと

研修会

9月「緊急時の対応」.....32名
10月「食事介助の基本的対応」.....36名
11月「火災避難訓練」.....49名

	9月	10月	11月
絵 手 紙	19名	6名	23名
さ を り 織 り	14名	26名	14名
生き生きサロン	129名	87名	118名
小 物 づ くり	10名	休み	7名

(延べ利用人数)

会員数

協力会員	利用会員	賛助会員	合 計
114名	59名	60名	233名

(H21/11/30 末現在)

特定非営利活動法人 りんりん



「手仕事といのち」

新年あけまして おめでとうございます。

私ごとを年頭にお話させていただくことをお許し下さい。去年の11月、ふるさと津軽で一人住まいをしている母を訪ねて来ました。介護保険を利用せず、自立した生活が出来ていることを確認し、安心して帰って来れました。滞在中、母がほどこいた古着の布をたくさん見せてもらいましたが、その中に、色がさめ継ぎ当てをした布があり、その縫い目の美しさに心を奪われました。それは祖母の手によるものでした。大切な布地のいのちをつなごうと繕った祖母の心は、100年経った布を通して孫の私にも伝わって来ました。

津軽には「裂織」という織物があります。それは古着を裂くという無惨な行為が、“織る”という優しい手仕事を経て新しいいのちを生み出す織物です。手にとった作品は、見る目も触れた手も、そして心もあたたかくしてくれました。

ふるさとの手仕事をもう1つご紹介。山奥に自生する山葡萄の蔓や樹皮を手間ひまかけて加工し、昔ながらの技法で編み上げた籠です。手の脂を吸うほどに光沢を増し、長年愛用すると皮革と見紛うほどの色つやとなります。あるお店で、60年使い続けているという籠を見せていただきました。作った人と使っている人の心が溶け合って、年輪を重ねなければ生まれてこない光沢や風合の美しさに目を見張りました。手軽なことが求められている時代の中で、



津軽の人々の手仕事は、手間をかけ時間をかけて、物のいのちが甦り輝くことを教えてくれました。仕事も人生もそのようにありたいと思う新年です。

理事長 村上真喜子

愛知県2年目職員現場体験研修(NPO)

知多建設事務所：安藤 彰教

私はこれまで、祖父母と同居の生活を送った経験が無く、日常生活において高齢者と接する機会が全く無い中で生活をしていました。現場体験研修としてりんりんで6日間の研修を受けて、祖父母と同年代である施設利用者と接する中で、高齢である事について改めて考えさせられました。これまでは、「高齢者には配慮・思いやりが必要だ」と分かっていながら、どう配慮し思いやればよいかわからなかった。研修を終えて、社会人として、高齢者がどのような手助けが必要でどう接すればよいかを、学ぶことが出来ました。

刈谷児童相談センター：井上 裕美

研修中、利用者さんやスタッフの笑顔に力をもらいながら活動を行なうことが出来た。利用者さんには、それぞれ得手不得手があり、私にはどこまでを援助すべきか、という線引きが難しかった。お手伝いしてしまうことは簡単だけど、それが利用者さんが本当に必要とされている援助とは必ずしも一致しないことがわかった。りんりんの活動は、スタッフの方だけではなく、多くのボランティアによって支えられている。活動の一つ一つが利用者さん元気につながり、それが強いては地域や県民の元気につながるのだと思う。互いを思いやる気持ちを大切に、今後の仕事に活かしていきたいと思った。

愛知用水水道事務所：石川 義和

研修の感想は一言で言えば「いい経験をさせてもらった」です。個人的な話ですが、僕は祖父母と同居したことがないので、デイサービスを利用されている世代の方と交流する機会は皆無です。そういう意味で「普段接することのない方とコミュニケーションするいい機会を与えてもらった」というのが率直な感想です。正直な話、今回のような6日間の短期研修でNPOについて何かが分かるだとか問題点を見つけるだとかは少なくとも僕の頭では無理があるので、コミュニケーションの経験の場として、楽しく6日間過ごすことができました。ありがとうございました。最後に、「水を大切に」。

知多県税事務所：梅原 絵美

私は主に、デイサービスと学童保育に参加させていただきました。これまで高齢者の方々と接する機会がほとんどなく、参加時はとても緊張しました。スタッフの皆さんやボランティアの方々は明るく、楽しんで活動されており、安心して取り組むことができました。慣れないことばかりで、なかなか満足いく活動ができず悩むこともありましたが、普段の業務とは違う環境の中で過ごしたことは、今まで気づけなかったものに目を向けられる良い経験となったと感じています。ほんとうにありがとうございました。



知多建設事務所：植田 泰行

童話の村秋まつりがもうすぐ始まる9月中旬にお世話になりました。「デイサービスやなべ」では、利用者さんと彼岸花の咲く矢勝川を散歩したり、運動会の玉入れのカレンダーを作ったり、とても楽しい時間を過ごしました。りんごクラブでは、子ども達とオセロやトランプ、サッカーに鬼ごっこ、頭も身体もフルに使って遊びました。6日間という短い期間でしたが、この研修を通して、利用者さんや子ども達からたくさん笑顔と元気をもらいました。ありがとうございました。

知多児童・障害者相談センター：大野悠里子

利用者さんの笑顔や、子ども達が楽しく元気に遊ぶ姿に触れることができ、集まってくる人達も職員の方も生き生きとしてみえて、とても素敵な場所だなあと感じました。職員の方は、私に対しても暖かくアットホームに受け入れてくださったので、とても楽しく研修を終えることができました。その中で、りんりんが地域に根づいた暖かい場所であることを感じ、自分自身も暖かい気持ちで日々の業務にあたりたいと思いました。りんりんの職員の方、お話ししてくださった利用者の方と一緒に遊んでくれた子ども達に感謝しています。



建設部：大森 規章

研修でお世話になったのは、彼岸花が咲き始めた9月上旬頃で、環境の良い所だと思いながら通勤していました。主にデイサービスと学童保育のお手伝いをさせていただき、利用者の方にいろいろお話を聞いたり、折り紙の狐を折ったり、歌を歌ったり、彼岸花の咲く土手沿いを散歩し、子ども達と遊んだりして、慣れないながらも楽しく過ごさせていただきました。職員の方々は、忙しく大変そうでしたが、楽しそうに仕事をしていました。利用者に気分良く過ごしてもらうため、努めて楽しそうにしているとのこと、仕事の大変さを知りました。お忙しい中、有意義な体験をさせていただき皆さまありがとうございました。

産技研食品工技：三井 俊

主にデイサービスと学童保育の手伝いをしたのですが、当然自分が役に立てたということもなく、むしろ足をひっぱってしまった事の方が多かったと思います。しかしほとんどのことが普段経験することのないことであり、介護や福祉といった、これまでは自分とは無関係だと思っていた事を少しでも身近に感じることができるようになりました。6日間という短い期間の研修だったのですが、スタッフの方々と働くことを通して、新たに学ぶことがあり、さらに自分も地域のために何か貢献できることはないかなど考えさせられることも多く、非常に有意義な研修でした。



サービ斯拉ーニング

私たちは「デイサービスやなべ」「りんごクラブ」で5日間サービ斯拉ーニング活動をさせていただきました。

生き生きサロンでは地域に根づいたNPO活動の重要性を知ることができました。コミュニケーションを通して相手と大切に思う気持ちや尊重した接し方について学びました。自分達の思うようには取り組むことはできませんでしたが、自分の未熟さに気づき、これからの実習や社会に出てからの基礎となる経験につながるものでした。この経験を今後の大学の授業に活かしていきたいです。

スタッフの皆様、利用者の皆様にはお世話になり、本当にありがとうございました。

日本福祉大学2年 堀越拓也・柴田茜・岡本亜沙美

※サービ斯拉ーニングとは、ボランティアなどの地域貢献活動を学習素材とした教育方針で、学生たちが自発的に地域貢献活動を企画・実施すること。

和の老後
二人三脚
何時までも

ばんこう

